

若いヴァイオリン奏者との交流

川口 ひろ子

コロナ禍の為八時閉館という条件付きではあるが東京文化会館小ホールで久しぶりの生演奏を聴いた。

オールモーツァルト作品による金川真弓ヴァイオリンリサイタル。金川さんはドイツ生まれ、日本やアメリカ各地で学び現在はベルリンを拠点に活躍する若手だ。チャイコフスキー国際他各種のコンクールの上位入賞を誇り、ロシアや欧米各地及び日本国内のオーケストラから出演オッファー殺到中の実力者という。チラシの写真を見る限り個性の強い強い演技派女優を連想するが、登場した彼女は小柄で平凡な女子大生と言っ感じで、一体今夜はどのような展開になるのか……。

演奏されたのはモーツァルトのヴァイオリンソナタ四曲。淡々とした、しかし基本をしっかりと抑えた充実した演奏だ。現在クラシック界のトレンドの最前線を走る古楽風、愛想のないというか、抒情性の少ない乾いた音色が響き渡る。これが現在トップを行く若手奏者の奏でるベルリン最前線のモーツァルトだ。

ヴァイオリンソナタとはヴァイオリンとピアノの二重奏曲のことで、古典派とロマン派の過渡期、丁度モーツァルトの活躍した時代に好まれた様式だ。当初はピアノが主体でヴァイオリンは時々合の手を入れる程度であった。これに満足できないモーツァルトは、二つの楽器が対等に絡み合い丁々発止と掛け合う、現代のヴァイオリンソナタの形式に発展させた。新しい時代の空気を全身で感じ取り音楽で完璧に表現できるモーツァルト、後世人々は彼を天才と呼ぶ。その天才ぶりを金川さんは、新と旧のヴァイオリンの音色を弾き分けて証明してくれた。天才を称える四つのヴァイオリン曲というセンスの良いプログラムが、モーツァルト愛好家の集いに贈られたのだ。

平凡な女子大生と私が勘違いした金川さんは、スケールの大きな実力とお洒落心を持つ音楽家だった。若い才能が続々と登場する昨今のクラシック演奏会、こんな出会いがあるからコンサート通いは止められない。